



岩手県立磐井病院

両磐ネットワーク i-RIAS

病院間での患者様紹介の際、リアルタイムに必要なデータを参照可能に

導入経緯

複数病院間での紹介患者数増加に伴い
地域連携のシステムを構築

両磐地域においては医師が不足しており、それぞれの分野での専門医の数も限られているため、患者様は複数の病院に行かれる事がよくあります。そのため、病院間で患者様を紹介しあう機会が増えてきました。紹介時には、紙の紹介状と、診療情報としてフィルムやCD-ROMを用いていましたが、紹介患者数の増加に伴い、紙の紹介状やフィルム、CD-ROMの取扱いが次第に煩雑になってきました。そこでコンピュータを使用したネットワークで患者を紹介し、診療に必要な検査データもやり取りできないか、と考えるようになりました。

また、夜間・休日・救急の診療で、患者様が他の病院にかかっている事が分かって、時間外のため診療情報を照会する事ができず、常に不安を抱えながら診療をしていましたので、それを払拭したいという思いもありました。実際の患者様の例を上げると、元々は千厩病院にかかっていた、その後、大東病院で異常が見つかり、磐井病院を紹介された患者様がいらっしゃいました。その紹介状には、大東病院の診療情報が主で、最初の千厩病院の診療情報があまり入っていませんでした。しかし、情報共有したところ、千厩病院の診療情報から主因に結びつく手掛かりが見つかったという事がありました。こういう点はまさに連携システムならではのメリットだと思います。

そこで、2年半ほど前から千厩病院、大東病院、花泉地域診療センターの両磐地域と胆沢病院で診療情報共有ネットワークを構築しました。紹介状、検査データ、心電図、内視鏡、放射線画像が Web 参照できるシステムを作成し、地域連携室とも協力しながら運用し、従来よりも便利になりました。

次の段階として、時系列で診療データが共有できる地域連携のシステムを構築しようという話になりました。診療情報共有により、各病院の検査データを見られるようにはなりましたが、その病院のサーバにアクセスして見るためバラバラで、一括して時系列に見る事はできませんでした。連携している病院同士の診療情報を共有し、今までの診療の流れを時系列に確認できるシステム、つまり診療データが病院中心ではなく患者様を中心に見られる新しいシステムを導入したいと考えるようになりました。

導入効果

過去画像との比較も時間や手間をかけずに
一瞬で可能に

たとえば、胆沢病院には呼吸器科に患者を紹介しています。呼吸器科では前回の写真と変化があるかないかで診断が変わることもありますので、前回の写真が非常に重要な意味を持ちます。診療情報を共有すると、紙や写真のデータで渡す場合と違いリアルタイムで見たいときに見る事ができ、CD で見る時のような手間もありません。また、患者が紹介資料を持って病院に行く前に、診療情報が見られるので事前に準備ができるというのもメリットです。



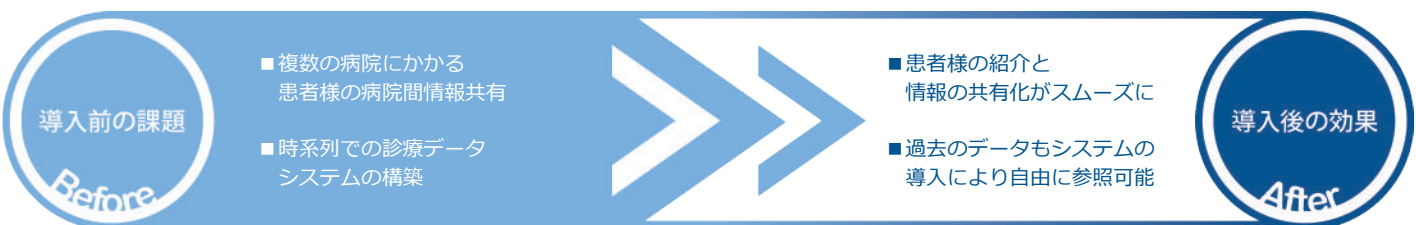
副院長 中村 紳 氏



地域医療福祉連携室 地域連携班 稲田 敦夫 氏

導入システム

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- 診療情報統合システム **STELLAR**
- 地域連携システム **STELLAR NET**



両磐ネットワーク i-RIAS：システム導入時期 / Apr 2011



岩手県立磐井病院は昭和 24 年（1949 年）に、岩手県立病院の理念である「県下にあまねく良質な医療の均てんを」という精神のもとに、両磐地区とその周辺の地域の医療を担当する広域中核病院として設立されました。

以来、当地域の皆様の健康の磐として昼夜努力を続けて参りました。今後とも健康に対する安心を地域の皆様に提供できますように、誠心誠意、更なる努力を続ける所存です。ご存知のように医療には危険性と不確実性が伴います。いや医療は危険性と不確実性のかたまりと申しても過言ではありません。我々岩手県立磐井病院職員は、病気と闘う病める方々の仲間として、この医療の危険性や不確実性を少しでもなくし、地域の皆様に安全かつ良質な医療を提供するために、日夜、新しい知識や技術の習得のために切磋琢磨しております。

また地域の保健医療活動はひとつの医療機関だけでできるものではありません。当地区の他の医療機関や、保健福祉機関、ならびに行政の方々と密接な連絡を取り合い、地域住民の皆様の健康のために職員一同固い決意で努力してまいります。

所在地：岩手県一関市狐禅寺字太平 17
病床数：315 床
診療科：内科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科
理学診療科

今後の方針

各県立病院のオーダリングに接続されれば、岩手県内に展開できるので、岩手県の患者様がどこの県立病院に行っても、過去の診療データをリアルタイムで辿る事ができます。

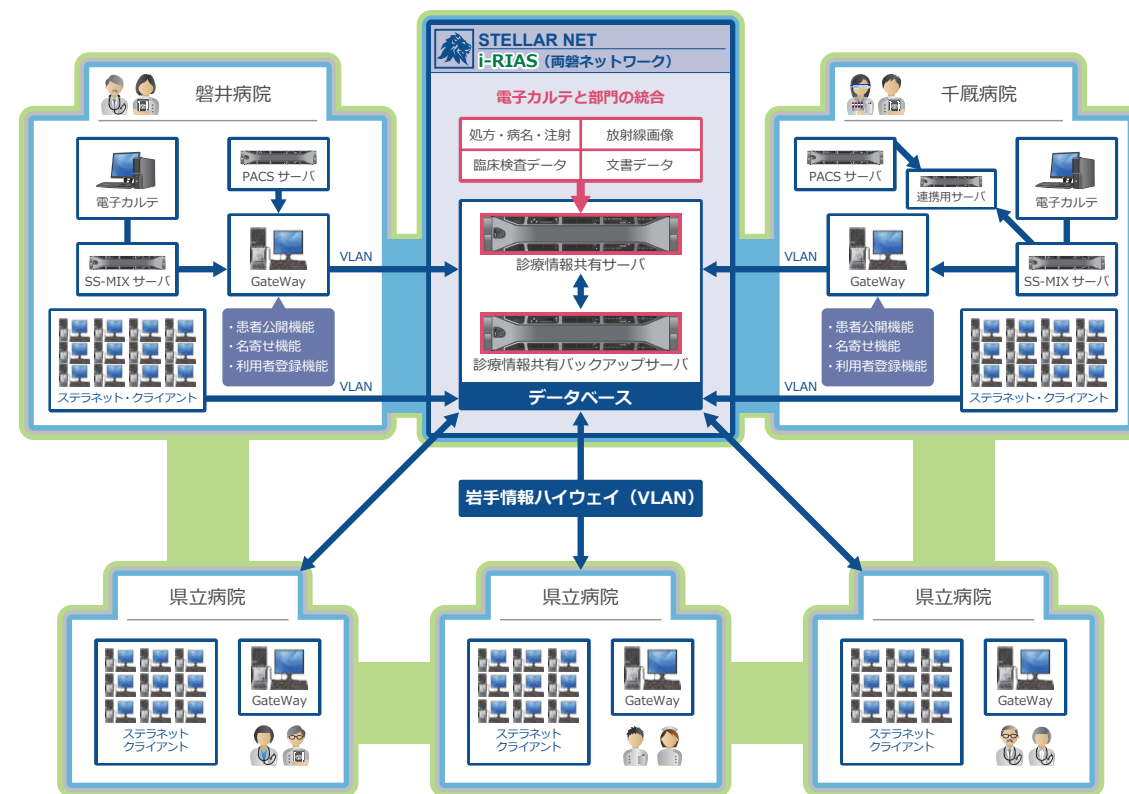
現在は県立病院の中のクローズドなシステムですが、将来的にはオープンな、医療施設が参加を希望すれば参加できるようなシステムにしたいと考えています。

連携の拡大も SS-MIX サーバを使用しているので接続コストや時間が短縮でき、新たにソフトを開発する必要はありません。また、先の震災で、薬・診療・カルテのデータ損失がありましたので今後は、データの二重化、バックアップの役割を与える事も考えています。

県立病院で使いやすいシステムを作り、それを周辺の病院にも見て貰い拡充していきます。

まずは磐井病院、千厩病院間で始めて、両磐エリア圏、さらに盛岡中核と広げ、ゆくゆくはデータセンター化することを考えています。

システム構成図



今後の期待・要望

こういったシステムは、使いながらより良い物にしていくものだと思います。そういう意味では導入して終わりではなく、こまめに一緒に発展させていくようなシステムにして頂けたらと思います。



岩手県医療局 湊 氏